

第1学年 学級活動（2）学習指導案

- 1 日時 令和元年 5月29日（水） 第5校時（13：25 ～ 14：10）
- 2 場所 教室
- 3 題材 「じしんからみをまもろう」 学級活動(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- 4 題材について

(1) 児童の実態

1年生の児童（男子10名、女子4名）は、入学して2ヶ月近くたった現在、小学校の生活にも慣れ、元気に過ごしている。学校生活のルールも理解してきており、進んで守ろうとしている。指示や与えられた課題にも、意欲的に取り組もうとする児童が多い。しかし、時には、注意が散漫になり、よく指示を聞かずに行動してしまう児童もいる。また、突発的に起こった出来事に対して、自分で考えて行動することは、まだ難しいと思われる。

児童は、まだ大きな地震にはあった経験はないが、保育所で、毎月防災について学んできており、地震が起きたら机の下に避難することや、机がない時はダンゴムシのポーズで頭を守ることなどを学習している。

また、保護者に向けて、地震についてのアンケートを行った。結果は以下の通りである。

(R1.5.9. 1年生保護者14名に実施)

1 家庭で地震についてお子さんと話をしたことがありますか。	はい 8名	いいえ 6名
2 はいと答えた方は、どのようなことを話しましたか。(複数可)		
ア これまでに起こった地震のニュースについて	4名	
イ 今後愛媛県で起こりうる地震の可能性について	5名	
ウ 地震が起こった時の身の守り方について	5名	
エ 家が揺れた時の、身の回りの危険な物について	3名	
オ 避難経路、避難場所について	6名	
カ 家族の集合場所について	4名	
キ 防災グッズについて	2名	

1の問いに「はい」と答えた家庭では、身の守り方や避難経路についても、具体的に話し合っており、防災について高い意識をもっている。「いいえ」と答えた家庭については、1年生なりの心構えができるように、家庭でも地震について、話題にする必要があると思われる。

(2) 題材設定の理由

東日本大震災を上回る被害が予想される南海トラフ大地震が、今後30年以内に起こる確率が70%から80%といわれている。上島町でも、震度6強の地震が起こると予想されている。この地震が起きた時、自分自身で危険を回避し、安全を確保し、身を守る力を身に付けることは、防災において重要な課題である。

児童は、平日の日中の大半は学校で過ごす。したがって、学校で地震が起こった時、どのように行動すればよいかを具体的に学ぶことは、児童の命を守る上で大切である。避難訓練でも学んだ「頭を守ること」、「落ち着いて指示を聞くこと」、「みんなと一緒に安全に逃げること」を改めて指導するとともに、児童が活動することの多い場所を取り上げ、場所に応じた身の守り方や避難の仕方を考え

せたい。そして、自分で判断して行動する力や、「自分の命は自分で守る」という意識を高めたいと考え、本題材を設定した。

(3) 指導の工夫

指導にあたっては、学校にいる時に地震が起きたら、身の回りの何が危険なのかを予測し、どのようにして身を守ればよいのかをみんなで話し合っていくことで、自分で判断して身を守る行動がとれるようにしたい。

そこで、まず、東日本大震災の時のある家での揺れの映像を見せ、地震の時には、物が倒れたり、落ちたり、動いたりすることに気付かせる。映像の中の親子は、落ち着いてしっかりと身を守っていることから、地震が起こると怖いけど、身の守り方を学習することで、自分の命を守ることができるという前向きな気持ちをもたせて学習に臨ませたい。

次に、教室で危険だと予測される物をペアで話し合い、写真に印を付けさせる。そして、どうしてそう考えたのか発表させる。教師は、鉢植えを動かしてみたり、本箱を揺らしてみたりして見せながら、「倒れてきそうなもの」「落ちてきそうなもの」「動いてきそうなもの」を避けることが大切なことをみんなで確かめたい。そして、それらの物から身を守るための手段のひとつとして机の下にもぐることも確認したい。

その後、教室以外で児童がよく活動する場所も取り上げ、その場に応じた危険回避の仕方、身を守る方法を考えさせる。話し合いが終わるころ、緊急地震速報を予告なしに流し、学習したことを基に身の守り方を練習させる。

また、本日の授業内容や児童の様子を家庭にも学級通信で知らせるなど、いざという時に、落ち着いて身を守る行動ができるようにするために、家庭との連携を図っていきたい。

5 事前の活動

活動の内容	指導上の留意点 資料	活動の中で期待する児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 各家庭に地震対策に関するアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の地震に対する意識を把握するための参考にする。 	
<ul style="list-style-type: none"> 地震・津波を想定した避難訓練（学校行事） 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報について知らせる。 「おはしも」に気を付けて、指示に従って素早く非難できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 真剣に避難訓練を行うことができる。（観察）

6 本時の展開

(1) ねらい

- 校内の様々な場所で地震が起こった時の、身を守る方法を考えることができる。
- 自分で考えて安全に行動し、自分の命を守ろうとする意識をもつことができる。

(2) 資料 東日本大震災の時の揺れの映像 写真 緊急地震速報

(3) 展開

	学習活動	時間(分) 形態	○ 指導上の留意点 ◆ 評価
導 入 つ か む	1 東日本大震災時の揺れの映像を見て、分かったことや思ったことなどを発表する。	5	○ 映像を見せ、大きな地震の時には、物が倒れてきたり、落ちてきたり、建物が壊れたりすることに気付かせる。 ○ 身を守る方法を知り、自分で自分の命を守る力を身に付けることの大切さを知らせる。 ○ 学校にいる時地震が起きたら、どのように身を守るかを学習することを伝える。
展 開 さ ぐ る 見 つ け る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">じしんから みをまもるほうほうを かんがえよう。</div> <p>2 学校で地震が起こった時、どこが危険かを予測し、どのように行動すればよいのかを考える。</p> <p>(1) 教室</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と2人ペアで、教室の写真の危険だと思うところに○を付け、どのように危険なのかを話し合う。 予測した危険についてみんなで話し合い、どのようにして危険から身を守ればよいかを考える。 <p>(2) 玄関、トイレ、運動場</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで危険を予測する。 机がない場合は、どうやって頭を守るのがよいかを考える。 	5 1 2 1 3	<p>○ 映像の中で、本棚、本、テレビなどが、どのようになっていたか確認し、自分たちの生活の中での危険を予想させる。</p> <p>○ ペアでの話し合いがうまく進むように、机間相談を行い、サポートする。</p> <p>○ 教室内で危険と思われる本箱や植木鉢などを揺らして見せながら、どのように身を守るとよいか考えさせる。</p> <p>○ 物が「倒れてこないか」、「落ちてこないか」、「動いてこないか」を考えて、危険を予測するとよいことに気付かせる。</p> <p>○ 避難訓練で学んだ、揺れがおさまるまでは、机の下に入り、脚をもって頭を守るということ、揺れがおさまったら、「お・か・し・も」を守りながら、教職員の指示で避難することを確認する。</p> <p>○ 児童が普段活動している場所の写真を提示し、それぞれの場所での危険を予測させ、写真に丸を付ける。</p> <p>○ 机がない場合は、ダンゴムシの姿勢になり頭を手で覆ったり、ランドセルや帽子などで頭を守ることを伝える。</p> <p>◆ 身の回りの危険を予測し、適切な避難行動を考えているか。(発言)</p>

	3 緊急地震速報を聞いて、学習したことを基に、避難の練習をする。	5	○ 授業中に地震が起こったことを想定し、予告なしに緊急地震速報を流し、緊張感をもって身を守る練習をさせる。 ◆ 学習したことを生かして、身を守ろうとしているか。(観察)
終 末 決 め る	4 本時の学習を振り返り、今後のめあてをもつ。	5	○ 本時の学習を終えて、分かったことやこれからしたいことを発表させる。 ○ 地震に備え、普段から学校でも家でもどこが危ないか考えておくこと、いざという時に慌てずに行動できること、自分の命は自分で守ることが大切であることを押さえ、まとめとする。

7 事後の活動

- 学級通信で、アンケートの結果と本時の学習内容を家庭に報告し、家庭でも危険な場所と避難方法を話し合ってもらおう。

8 研究の視点

- 防災について正しい知識と実践力を身に付ける指導であったか。
- 命を守るために、主体的に行動しようとする意識を育てることができていたか。

※ H30伯方小の授業を参考にさせていただきました。